

簿記・会計 解説

第3問

問1

資料2の決算整理事項等の仕訳を行う。

(1) 掛けによる売上に対する値引きであるため、

売上 50 売掛金 50

(2) 資料1より現金過不足は¥8。このうち買掛金の誤記帳による金額を引き、残りが雑益となった。資料3より雑益は¥3。であるため、

現金過不足 8 買掛金 5
雑益 3

(3)

仕入 240 繰越商品 240
繰越商品 270 仕入 270

(4) 資料1と(1)の内容より、売掛金の期末残高は

$$1,110 - 760 - 50 = ¥300$$

よって貸倒引当金は $300 \times 2/100 = ¥6$ 。資料1より貸倒引当金の残高は $5 - 3 = ¥2$ 。であるため、繰入額は $6 - 2 = ¥4$ 。

貸倒償却 4 貸倒引当金 4

(5) 備品は×4年1月1日に取得し、2年経過しているため1年分の減価償却が行われ、さらに1年分の減価償却を行う。1年分の減価償却費は

$$\left(320 - 320 \times \frac{10}{100} \right) \times \frac{1}{4} = ¥72$$

よって仕訳は以下の通りになる。

減価償却費 72 備品減価償却 72
累計額

(6) 資料1より有価証券の残高は $260 - 100 = ¥160$ 決算日の時価は¥165になっているため、

有価証券 5 有価証券評価益 5

(7) 毎年1月末日に2月～翌年1月分の保険料を前払している。このため、決算日(12/31)には翌年1月分の前払保険料として繰延を行い、その後当期に入ると保険料に振り戻す。以上から決算整理前までに行われた仕訳は以下のとおりである。

1/1 保険料 1か月分 前払保険料 1か月分
1/31 保険料 12か月分 * * * 12か月分

このことから資料1の保険料の金額は13か月分であることが分かる。よって1か月分の保険料は $26/13 = ¥2$ 。以上から決算整理の仕訳は

前払保険料 2 保険料 2

(8)

消耗品 3 消耗品費 3

(9) 借入金の1年間の利息は

$$200 \times \frac{4}{100} = \text{¥}8$$

前回の利払い日9月末日から、期末の12月末日まで10月～12月の3か月分の利息をまだ支払っていない。この利息を未払利息として繰越を行う。繰越の金額は

$$8 \times \frac{3}{12} = \text{¥}2$$

よって仕訳は

支払利息 2 未払利息 2

(10)

資本金 12 引出金 12

以上の仕訳から資料3の未記入項目を記入を行う。

仕入 [アイウ] の正解

$$1070 - 80 + 240 - 270 = \text{¥}960.$$

貸倒償却 [エ] の正解

$$\text{¥}4$$

減価償却費

$$\text{¥}72$$

保険料 [オカ] の正解

$$26 - 2 = \text{¥}24$$

消耗品費

$$21 - 3 = \text{¥}18$$

支払利息 [キ] の正解

$$\text{¥}2$$

売上 1, [クケコ] の正解

$$1480 - 60 - 50 = \text{¥}1,370$$

有価証券評価益 [サ] の正解

$$\text{¥}5$$

以上から損益勘定の内容をまとめる。

		損益		
12/31	仕入	960	12/31 売上	1,370
	給料	227	有価証券売却益	7
	貸倒償却	4	有価証券評価益	5
	減価償却費	72	雑益	3
	旅費	27		
	保険料	24		
	消耗品費	18		
	支払家賃	36		
	支払利息	2		
	当期純利益	15		
		1,385		1,385

資産、負債、資本の残高を求める。

資産：

現金	:	¥120 = 565 - 445
当座預金	:	¥530 = 1,780 - 1,250
売掛金	:	¥300 = 1,110 - 760 - 50
有価証券	:	¥165 = 260 - 100 + 5
繰越商品	:	¥270 = 240 - 240 + 270
消耗品	:	¥3 = 4 - 4 + 3
備品	:	¥320
前払保険料	:	¥2
資産合計	:	¥1,710

負債：

買掛金	:	¥255 = 860 - 610 + 5
借入金	:	¥200
貸倒引当金	:	¥6 = 5 - 3 + 4
備品減価償却	:	¥144 = 72 × 2
累計額		
未払利息	:	¥2
負債合計	:	¥607

資本：

資本金	:	¥1,088 = 1,100 - 12
資本合計	:	¥1,088

貸借対照表は以下の通り

貸借対照表

現金	120	買掛金	255
当座預金	530	借入金	200
売掛金	300	貸倒引当金	6
有価証券	165	備品減価償却	144
		累計額	
繰越商品	270	未払利息	2
備品	320	資本金	1,088
消耗品	3	当期純利益	15
前払保険料	2		
	1,710		1,710

問 2

1月の取引の仕訳を行う。

1日	支払家賃 引出金	3 1	当座預金	4	(当座預金出納帳)
	未収金	37	備品	80	(普通仕訳帳)
	累計額	()			
	売却損	()			

備品 ¥320 のうち ¥80 を売却したため減価償却費は

$$¥144 \times \frac{80}{320} = ¥36$$

よって減価償却累計額は ¥36、固定資産売却損は ¥80 - ¥37 - ¥36 = ¥7.

3日	現金	15	売掛金	15	(現金出納帳)
	買掛金	15	当座預金	15	(当座預金出納帳)
4日	買掛金	9	現金	9	(現金出納帳)
5日	当座預金	16	売掛金	16	(当座預金出納帳)
9日	仕入	()	買掛金	40	(仕入帳)
			当座預金	10	(当座預金出納帳)

当座預金出納帳と仕入帳の記入から 9日の仕入の金額は ¥50.

10日	買掛金	10	仕入	10	(仕入帳)
	売掛金	60	売上	()	(売上帳)
	現金	10			(現金出納帳)

現金出納帳と売上帳の記入から 10日の売上の金額は ¥70.

11日	売上	5	売掛金	5	(売上帳)
12日	仮払金	4	現金	4	(現金出納帳)
14日	仕入	30	買掛金	30	(仕入帳)
	現金	1	仮払金	()	(現金出納帳)
	旅費	()			(普通仕訳帳)

現金出納帳と普通仕訳帳の記入から 14日の仮払金は ¥4、旅費は 4 - 1 = ¥3 となる (12日に仮払した ¥4のうち、¥3は旅費として使い、残りを返還した)

15日	当座預金	20	売上	20	(売上帳、当座預金出納帳)
19日	当座預金	10	売掛金	10	(当座預金出納帳)
21日	仕入	15	現金	15	(仕入帳、現金出納帳)
	貸倒引当金	1	売掛金	1	(普通仕訳帳)
23日	売掛金	40	売上	40	(売上帳)
25日	給料	23	所得税預り金	2	(普通仕訳帳、合計試算表)
			当座預金	()	(当座預金出納帳)

25日の取引からこの日の当座預金の金額は $23 - 2 = ¥21$ である。

28日	消耗品費	6	現金	6	(現金出納帳)
30日	現金	37	未収金	37	(現金出納帳)
31日	保険料	24	当座預金	24	(当座預金出納帳)

以上の取引を勘定元帳に記入する。

現金					
1	前月繰越	120	4	買掛金	9
3	売掛金	15	12	仮払金	4
10	売上	10	21	仕入	15
14	仮払金	1	28	消耗品費	6
30	未収金	37	31	次月繰越	149
		183			183

よって [シス] = 49. また 25日の取引より [セソ] = 21.

仕入					
9	諸口	150	10	買掛金	10
14	買掛金	30			
21	現金	15			
		95			10

よって [タチ] = 95. また 13日の取引より [ツ] = 3.

消耗品費					
1	消耗品	3			
28	現金	6			
		9			

よって [テ] = 9. また 1日の取引より [ト] = 7.

売掛金					
1	前期繰越	300	3	現金	15
10	売上	60	5	当座預金	16
23	売上	40	11	売上	5
			19	当座預金	10
			21	貸倒引当金	1
			31	次期繰越	353
		400			400

よって [ナニ] = $15 + 16 + 5 + 10 + 1 = 47$.

買掛金

3	当座預金	15	1	前期繰越	255
4	現金	9	9	仕入	40
10	仕入	10	14	仕入	30
31	次期繰越	291			
					1,103

よって [ヌネノ] = $255 + 40 + 30 = 325$.

資本金

			1	前期繰越	1,088
			1	純利益	15
					1,103

よって [ハヒフ] = 103.